

2020.10.29

令和2年度京浜臨海部産業観光推進協議会
産業観光週間特別企画「第8回観光シンポジウム」

【概要】2020年4月にオープンになったパシフィコ横浜の北側に建設されたMICE(マイス)などの大型会議に適用されるという施設(パシコ横浜ノース)で標記のシンポジウムが行われた。

第二部の基調講演を聴講した。基調講演の元JR東海社長の須田さんの豊富な知識、経験、提言、高齢(89歳)にもみえない若さに驚かされた。提言そのものは特別新しいものではなく、身の回りのことを「心を込めて」探し、気づき、捉えてその情報を発信していく必要性を説いていた。日本どこにでも観光があるという言葉が印象的でした。

【日時】2020年10月28日(水)13:00~16:30

【場所】パシフィコ横浜ノースG301+G302会議室

【次第】

第一部 施設見学 パシフィコ横浜ノース施設見学

第二部 基調講演 14:30~16:30

1. 開会あいさつ

京浜臨海部産業観光推進協議会 会長 李 宏道
横浜市文化観光局観光MICE振興部 部長 栗原浩一

2. 基調講演

テーマ「これからの産業観光」京浜臨海部の観光を考える
全国産業観光推進協議会 会長 須田 寛

3. 質疑応答

進行役 京浜臨海部産業振興推進協議会 副会長 羽田 耕治

4. 閉会

【基調講演の内容】

3つのテーマに絞って約1時間の基調講演でした。

1. これからの「産業観光の役割」なぜ産業観光なのか。

- ・ピーアールの必要性を具体例の名古屋博覧会の事例を交えて話された。
- ・情報発信、ストーリー、説明の仕方が大切だ。
- ・ものづくり…農業体験の事例に興味があった。地方でもなく首都圏の郊外の農業体験でも可能。

2. 京浜臨海地帯での展開(期待を込めて)

赤レンガ倉庫、氷川丸、横浜港駅(桜木町)、臨海鉄道、造船所工場跡等の歴史、見どころの発見。近代産業遺産化から現代の臨海産業地帯のものづくりの経緯をたどるなかから、今後の方向を探る具体例を示して話された。

3. これからの京浜臨海地帯の産業観光の方向

・ビジネスモデルの必要性。見学先への謝礼等。

・観光するところをもち、まちづくりの心にふれるストーリーを考えれば自からの居住地、全国どこでも観光地足り得る。ものづくりのない地域は存在しない。

この言葉が結論に尽きると思いました。(レジメ参照)

【写真】



受付 川崎市の森係長も受付をされていました。



会場 301+302 会議室

提言

日本観光の再活性化を目指して 「新」日本観光」の展開



文：須田 寛
全国産業観光推進協議会会長

すだ・ひろし 1931年京都府生まれ。1954年京都大学法学部卒業後、日本国有鉄道入社。1987年東海旅客鉄道株式会社代表取締役社長、代表取締役会長を経て、2004年より相談役。全国産業観光推進協議会会長を務めるほか、観光・文化・交通の分野を中心に、地域振興活動に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、観光は内外ともに、深刻な影響を受けつつあります。すなわち、国際観光は激減が続き、国内観光についても各地のイベント等の自粛要請、さらには外出、移動などの自粛が求められる地域も多く、国内各観光地はかつてない試練に直面しています。

しかし、観光が低調な現在こそ、事態収束後の観光再活性化を目指して今後の観光振興（施策）の基盤づくりを検討すべき貴重な時でもあると思います。事態収束後の「日本観光」の展開は、従来の観光振興策の延長線上に乗せた単なる復活ではなく、これまでとは異なる新しい観光として、すなわち、以下の考え方を導入した「新」日本観光（「新」ディスプレイジャパン）として再出発すべきではないでしょうか。

施策の方向は次の通りと考えます。

1. 観光展開の多様化

■ 発地の多様化 ― 多様な観光の展開（Ⅰ）―

近年、日本を訪れる外国人客は、その4分の3までが東アジアの近隣諸国・諸地域（中国、韓国、台湾、香港など）からの人々でした。このため、新型コロナウイルス感染症の影響を特に強く、また大きく受けることとなりました。今後の外国人客誘致にあたっては、さまざまな国際情勢の急変にも対応すべく安定的な需要を目指して発地（国）を多様化すること等、さらに幅の広い国際観光を目指す必要があります。同時に低迷している邦人の国内観光もそれぞれの居住地を発地として、全国に幅広く展開しなければなりません。

例… 欧米、オセアニア、アフリカ、中南米諸国等からのウエイトを高める。
国内観光（全体の8割強を占める）の振興も並行して進めることが肝要。

■ 着地の多様化 ― 多様な観光の展開（Ⅱ）―

内外外国人を問わず、国内の着地（目的

地）の幅を広げることが必要です。特定地域や特定季節に集中しないよう、国内各地に満遍なく内外観光客を迎える努力を尽くすべきと思います。汎日本観光、すなわち、美しい日本を今一度新しい観光の視点で見つめ直す広域観光（「新」ディスプレイジャパン運動の展開等）こそ感染症収束とともに直ちに推進すべき重要な着眼点になると考えます。

例… 地方空港の活用（定期空路の開発、チャーター機の着陸など）
地方における新幹線、高速道路の利活用
旅心に訴える新広域観光キャンペーンの展開等

■ 手法の多様化 ― 多様な観光の展開（Ⅲ）―

観光資源に接する角度、特に視点を変えることによってその資源ないし資源所在地域の新しい魅力の再発見が実現します。こうした取り組みを目指して、新しい観光手法の提案を行い、観光資源の魅力再発見ないし再発見を図る必要があります。なお、リピーターが増加していることから、この点はリピーター対策としても緊急の課題です。

例… テーマ別観光の展開（産業観光、街道観光等）
学習観光、行動型観光の展開等